

C-50 和裁に於ける採寸方法についての一考察(第3報)

東京家政大家政 ○高月智志子 六反田ミサコ

目的 さきに和裁文物長着の着やすい着丈、身丈、及び袴下寸法設定に当りどのように採寸し、算出するのが適当か考察を試みたので、今回は袴肩明、くりニレ寸法は、どのように採寸し、設定したらよいのか、特に羽織との関連において基礎的研究を行った。

方法 本学学生50名を被験者とし、袴肩明、くりニレ寸法に關係すると思われる部位の身体計測を行なうとともに、袴肩明、くりニレ寸法の異なる実験衣を製作し、着装実験を行った。

結果 袴元の着やすさ、着にくさの要因は着装時の裾山が首のどの部位に定まるかによつて決まる。また、袴肩明から袖下りの間で出来る縦じわは、袴肩明が体型及び着装に合っていない時、即ち袴肩明が小さい時におきる現象であり、袴肩明寸法は、着装時の衣紋の整え方により、異なるヒが判明した。またくりニレ寸法についても同じく着装の仕方により異なるヒが分った。羽織のくりニレについては、従来長着と同寸と言われきたが、長着の着装時のくりニレと同寸でなく又は羽織の前裾がこれ着にくいものになる。以上の結果から、袴肩明、くりニレ寸法設定は、体型と着装の両面から考慮しなくてはならないヒが分った。次の表により必要寸法を求めるヒが分った。

$$\text{袴肩明} = \frac{\text{首幅}}{2} + \text{衿幅}$$

$$\text{くりニレ(晴着)} = \text{後総丈} - (\text{オセ頸椎} - \text{袴幅})$$

$$\text{くりニレ(普段着)} = \text{後総丈} - (\text{オセ頸椎} + 1 \sim 2 - \text{袴幅})$$